

■ 平成25年8月20日（火）観光振興対策特別委員会県内調査

1 大宮通り

ア 調査目的 にぎわい交流の拠点整備について

イ 大宮通りプロジェクトの概要

奈良公園、平城京跡、県営プール跡地など拠点整備によるにぎわいの創出とこれらの拠点をつなぐ大宮通りの統一した印象の空間づくり。

〔構成〕①奈良公園②県庁周辺③県営プール跡地④平城京跡⑤大宮通り⑥交通対策

ウ 調査概要

【近鉄奈良駅行基広場への屋根の設置】

・奈良公園の玄関口となる近鉄駅前行基広場を雨や直射日光の影響による劣悪な環境の改善を図ったもの。

・平成25年5月30日供用開始。

【大宮通りの修景】

・交差点や街路樹間に地植え花壇を整備し、花と緑のもてなし空間の創出。

・花壇の維持管理や街路樹等のあり方について沿道住民との対話を進めている。

エ 意見交換

Q：街路樹について

A：プラタナスのこぶは大きいこぶが1つできる。ケヤキでも剪定の仕方によるが小さいこぶがたくさんできる。ケヤキは箒が開いたような形が美しい。三条通りは低木（ドウダンツツジ）。

2 平城京歴史館（遣唐使船復原展示）（奈良市二条大路南4丁目 6-1）

ア 調査目的 にぎわい交流の拠点整備について

イ 施設概要

【展示概要】

①タイムトンネル②古代のアジアと日本の歴史③激動の東アジア

④平城京のくらしと文化⑤東アジア史年表⑥遣唐使シアター⑦平城京VRシアター

・遣唐使船復原展示

ウ 調査概要

【平城宮跡歴史公園拠点ゾーン整備計画】

・平成20年に策定された「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域基本計画」に基づく朱雀門の南側エリアの整備計画

・整備コンセプトは、

①往事の平城宮・平城京の姿を知り、奈良時代を今に感じる空間づくり、

②来訪者が平城宮跡に期待感や余韻を感じ、楽しみながら快適に過ごせる施設配置

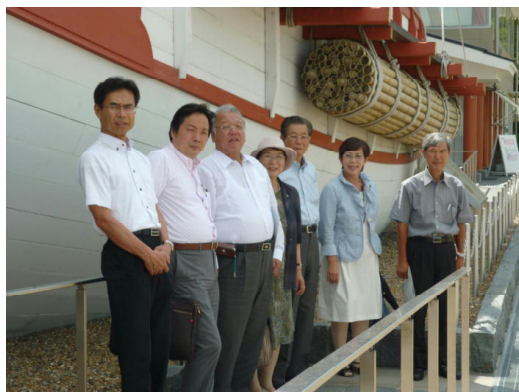
・整備スケジュールは、平成25年度整備計画を策定し、平成26年4月以降に整備着手予定。

・現在、整備計画に対するパブリックコメントを実施し、取りまとめ中。

【平城京歴史館】

・平城京歴史館は、日本の国づくりの歴史、それに伴う大陸や半島との交流、当時の平城京の様子や人々の暮らしなどを映像や展示で紹介。

・平城京VRシアターの最新映像「平城京 安らけし都」は、聖武天皇・光明天皇の皇女として生まれ、やがて女帝となることを運命づけられていた聡明な少女、阿部内親王の話。



3 葛城市相撲館「けはや座」(葛城市當麻 83-1)

ア 調査目的 記紀・万葉ゆかりの地について

イ 施設概要

【施設設置年】平成2年

【設置目的】

相撲の開祖である「當麻蹶速」を伝承するとともに、観光の拠点として地域の振興及び活性化を図る。

【実施事業の概要】相撲関係資料の展示、及び各種イベントの実施、観光案内。

【課題】リピーターの確保、中南和地域への観光の誘客、葛城市相撲館「けはや座」の情報発信。

ウ 調査概要

- ・大和国當麻の地(現葛城市當麻)は、わが国最初の天覧相撲といわれる同地の當麻蹶速(たいまのけはや)と野見宿禰(のみのすくね)との相撲が行われたところと日本書紀に記載されている。
- ・當麻蹶速は、野見宿禰との相撲に敗れたが、地元では、當麻蹶速を偲んで五輪塔(けはや塚)や顕彰碑を建てるなど大切に守られている。
- ・相撲館は、當麻蹶速の地元として建てられた相撲の資料館。本場所と同じサイズの土俵があり、相撲体験、相撲大会の開催や相撲甚句が披露されている。
- ・葛城市は、相撲発祥の地とし、當麻寺や竹内街道などさまざまな歴史遺産、文化遺産が残っている。
- ・日本書紀に記載のある竹内街道や當麻寺を観光の最適なツールとして活用(関西ウオーカーへの竹内街道特集の掲載、相撲館で竹内街道1400年記念相撲大会の11月開催、JR東海のコマースャルに當麻寺など)

エ 意見交換

Q: 書籍等の資料は、平成2年開館以前から収集していたのか。

A: 資料は、平成2年の開館当初はほとんどなかった状態で相撲協会から借りていた。平成3年に堺市在住の所蔵資料寄贈や相撲協会から毎年協力してもらった資料により年々ふえてきている。

Q: 資料は全て見る事が出来るのか。

A: 収納庫の資料室で保存し、その一部を展示している。

Q: 開館から現在までどのような苦労があったのか。

A: 相撲は、見るスポーツであってするスポーツではないと、実際に相撲を志す人は少ない。相撲をみるとしても大相撲の力士の人気がある。當麻蹶速などの歴史的なことに興味を持つ人は少なく、なかなか相撲館に足を運んでももらえなかった。考え方をかえ、専門的な資料を公開するよりも、もっと時代に合った力士等を中心に展示すれば、観光客も振り向いてくれるのではと思っている。



4 あくなみ 飽波神社・極楽寺（生駒郡安堵町東安堵）

ア 調査目的 記紀・万葉ゆかりの地について

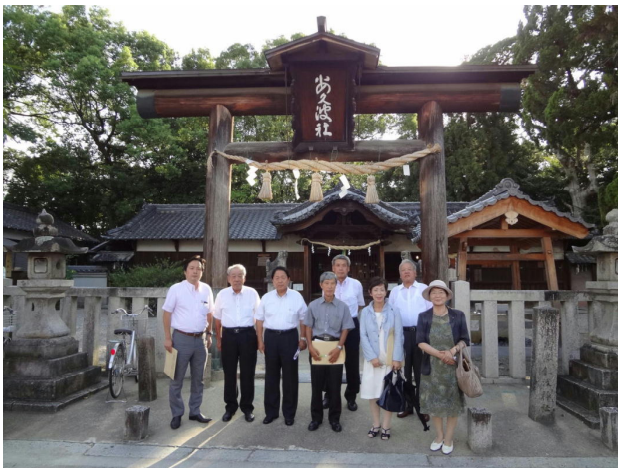
イ 調査概要

【飽波神社】

- ・飽波神社は、600年頃に聖徳太子によって建立され、続日本紀に記述が残されている。
- ・祭神は、素戔鳴尊（すさのおのみこと）。
- ・飽波神社は、安堵の総社で、聖徳太子が斑鳩から飛鳥に通った道といわれる太子道沿いにあり、雨乞い成就を祝って踊る「なもで踊り」の様子を描いた絵馬のほか、「なもで踊り」に使われた祭具や楽器などを所蔵している。
- ・なもで踊りは、平成7年に約100年ぶりに復活し、毎年10月第4土曜日に奉納されている。
- ・飽波神社内には、「太子腰掛け石」があり、聖徳太子が愛馬「黒駒」に乗り、「飛鳥の宮」から「斑鳩宮（現在の法隆寺）」の間を行き来されたおり、休まれた場所と云われている。このとき、太子をいやして舞い飛んだ雀の伝承により、雀は飽波神社の神の使いとされている。

【極楽寺】

- ・聖徳太子により587年に開創されたと伝えられる真言宗寺院。
- ・本尊の阿弥陀如来座像は11世紀後半、藤原時代の作。像高139センチの半丈六仏で国の重要文化財に指定されている。
- ・本堂内には聖観音立像や奈良時代に書写され、現在まで伝えられる大般若経六百巻が残されている。
- ・通称「広島大仏」と呼ばれる、広島市にあった西蓮寺の阿弥陀如来座像（鎌倉時代）が安置されている。
- ・毎年5月には大般若経の転読会の行事があり、法要がおこなわれる。



【飽波神社】



【極楽寺】

以上の施設は、観光客誘致に向けて、にぎわい交流の拠点整備、記紀・万葉ゆかりの地として観光情報の発信に積極的に取り組まれている。